



鷹野雅生 議会速報

# GASHIN

Vol.20 2018.9

〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47  
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

## この号の内容

### 【観光関連】

- 1 はじめに
- 2.3 八幡浜市との交流
- 4 八幡浜市との交流-質問-
- 5 八幡浜市との交流-答弁-
- 6 児童発達支援事業所
- 7 児童発達支援事業所-質問-
- 8 児童発達支援事業所-答弁-
- 9 中学生交流-質問・答弁・要望-
- 10 今後の展開-質問・答弁-

## はじめに

鷹野雅生議員 八幡みらいクラブの鷹野雅生です。

まずは、このたびはの大阪北部地震を初め、台風 12 号、21 号などにおきまして、被害に遭われました市民の皆様、心よりお見舞いを申し上げます。

さて、八幡みらいクラブは、去る8月6日、7日、私、鷹野と田島議員、奥村議員の3人で、愛媛県八幡浜市と四国中央市へ視察に行っていました。まず、最初の日のなぜ四国、愛媛県八幡浜市なのか。少しばかりお時間をいただきます。

---

### "GASHINとは"

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと願っております。

# 八幡浜市との交流

本市八幡市と八幡浜市、地名が八幡という文字だけでなく、やわたと読みも一致しています。

はちまん、やはたは別として、やわたはここだけです。

それともう一つ、大きな縁でつながっています。

日本で初めてのプロペラ飛行機の実験を成功させた人と言えば、本市飛行神社の祭主となっている二宮忠八翁の生誕の地が八幡浜市であることです。

八幡浜市出身の二宮忠八翁は、ライト兄弟の有人飛行実験よりも12年前、1891年(明治24年)4月29日に、自作のゴム動力飛行機で、3メートル滑走の後、離陸して10メートル飛行させ、日本初のプロペラ飛行機の実験を成功させた、我が国航空史の第1ページを飾る人物です。

ちなみに、英国王立航空協会展示場には、忠八の玉串型飛行機の模型を展示し、ライト兄弟より先に飛行機の原理を発見した人物として紹介されているそうです。

二宮忠八翁は、陸軍を退役後、有人飛行の開発に専念するために選んだ地が京都府の我がまち八幡市です。明治の半ばです。航空機など見た人は誰もいません。ですから、軍部に実用化を申請しても、理解、協力が得られず、年月が過ぎていきました。1903年(明治36年)のライト兄弟の有人飛行成功により、先を越された二宮忠八翁は、開発を断念することになります。

晩年は、航空機事故による犠牲者の霊を弔うために、飛行神社をカンジョウし、神主となって過ごした土地が八幡市です。

このように、本市と八幡浜市に共通する縁がきっかけとなって、両市の中学校、中学生の交流が平成25年度から始まり、お互いの市を隔年で訪問し、ことしで6年目となります。

去年は、八幡浜市から八幡市へ訪問されました。今年度は、本市の中学生が8月末に八幡浜市へ訪問する予定でしたが、残念ですが、台風のため中止になりました。

この中学生交流の取り組みは、八幡市、八幡浜市、それぞれ20人ずつの計40人が、夏休みを利用して、2泊3日の日程で、自分たちのまちを紹介したり、共通の偉人である二宮忠八翁について学んだり、訪問した市について体験的に学んでいるとのことでした。

今回の視察では、6年目に入った中学生による交流事業を、八幡浜市ではどのように評価しておられるのか。直接お伺いして本市の対応に生かせるところは生かしていただきたいと考えました。

あわせて、我が国航空史の第一歩を記された二宮忠八翁を、八幡浜市ではどのように評価されているのか。近年、航空機の父という評価が高まりつつあるとも言われているようですが、思ったままを言わせていただくなら、八幡浜市のまちの中に、二宮忠八翁の字なり顔が見られるのか。年間行事の中に、二宮忠八翁がどれくらい出てくるのか。直接訪ねてみたいと思ったからでした。

8月6日当日は、朝7時30分に八幡市を出発して、13時15分に八幡浜市に到着しました。

八幡浜市は、美しい海に面しています。私たちは、日ごろ海を見ることがめったにありませんから、久しぶりに海を見て、感動しました。京都で海となりますと、冬場に丹後へ行くことが多いものですから、冬の日本海とはまた違った太平洋の明るさと雄大さが、海の色、波の色にあらわれているように思いました。

さて、八幡浜市役所に到着しました。いきなりびっくりです。玄関の天井に大きな飛行機が目に入りました。翼の長さが5メートルぐらいだったのでしょうか、二宮忠八翁が考案した玉串型模型飛行機が、まるで飛ぶかごときに浮かんで見えるのです。

飛行機を天井からぶら下げているのですが、初めて目にした私たちは、これが二宮忠八翁の飛行機、夢と情熱を注ぎ尽くした飛行機が、我がまち八幡市の空を飛んでいるように見えました。

市役所の玄関のこの光景を見ただけで、八幡浜市が二宮忠八翁をどう見ておられるのか、八幡浜市にとって、市民にとって、二宮忠八翁がどんな存在なのか、聞くまでもなく、よく伝わってきました。

# 八幡浜市との交流

八幡浜市の人出入りの多い市役所ロビーで、存在感を発揮している二宮忠八翁ですから、市の行事にはしばしば登場しています。ミュージカルにもなりました。2016年、二宮忠八翁誕生150周年事業として、市民からオーディションで出演者を募集し、半年間の研修を経て、市民ミュージカル二宮忠八物語を上演されました。その節には、堀口市長にもおいでいただき、ごらんくださいましたと言っておられました。

また、2016年には、二宮忠八翁誕生150周年事業として企画展の開催もされました。企画展の開催に当たり、八幡市の飛行神社から貯蔵品の貸し出しが行われています。模型飛行機の展示は、市役所ロビーだけでなく、図書館などにも模型飛行機の復元機を展示しています。昭和51年から、毎年4月29日に、飛行記念大会が行われています。市内外から親子や小・中学生が大勢参加されているそうです。

八幡浜市は自然にも恵まれ、漁業も盛んです。国内有数の漁港としても知られていますから、タチウオ、イカ、アジなど約200種類の魚が水揚げされている八幡浜市です。地引網をひかせてもらったり、いかだレースに参加したり、クルージングの体験もあったそうです。また、八幡浜市でとれるミカン、温暖な気候と急斜面に石垣が積んだ段々畑でおいしいミカンがつくられ、ミカンどころ愛媛県の中でも最大の産地です。品質は日本一を誇り、市内でとれたミカンのほとんどは、東京方面に出荷されています。

中学生の交流がきっかけとなって、八幡浜市の冷凍ミカンが本市八幡市の学校給食にも採用されたということで、ますます身近な関係に発展していき、すばらしいことだと思います。ことしの6月には、八幡市の商工会が考案された特産品のタケノコと竹炭を使ったクロッケが、八幡浜市の学校給食にも取り上げられました。両市の学校給食に、それぞれの特産品を取り入れることで、両市がより身近に感じ合うと同時に、それぞれの市の特色や魅力を再発見する機会になっていると思います。

今回、八幡浜市を訪問させていただいたことで、八幡浜市における二宮忠八翁の位置づけの高いことと、中学生の交流を大事な行事として高く評価されていることがよくわかりました。本市における飛行神社で言えば、今、アメリカで試験飛行している三菱重工のジェット機MRJが完成したときに、三菱重工の役員や関係者がそろって飛行神社に参拝されたのが、新聞やテレビニュースとなって、全国に報道されました。あのニュースを見て、家内安全や商売繁盛の神社は珍しくはありませんが、航空機の安全に特化した神社が八幡市にあること、しかも航空業界の代表が、まず一番に参拝に来る、航空機専門の神社であることを知っていただく。

まさに願ってもいない機会となりました。

ドローンを含め、飛行機はますます身近な存在になっていきます。政府も、2020年代には、空飛ぶ車の実用化を目指して行程表をまとめると、先ごろのニュースに大きく出ていました。

127年前、二宮忠八の時代は、明治の半ばです。飛行機を見た人はいません。羽ばたかずに飛んでいるカラスを見て、風に乗ったら人も飛ぶことができるのではと、飛行機のイメージを形にした人が本市にいたのです。軍部も企業家も、将来飛行機が実用化され、重要な武器になることなど想像もできない時代でした。だから、二宮忠八翁は苦労したのです。八幡浜市で生まれ、八幡市で頑張った二宮忠八翁のことを、八幡市と八幡浜市、両市の市民、中学生の交流も大切にしながら、全国に伝えていけたらすばらしいことだと思います。

そこで、二宮忠八翁や飛行神社にかかわって、何点かお伺いします。

# 八幡浜市との交流 -質問-

## ① カラス型飛行機の教材としての活用について

⇒カラス型飛行機の教材としての活用も含めて、本市も積極的に考えていただきたいと思うのですがいかがでしょうか、お考えをお聞かせください。

## ② 飛行神社の活用について

⇒飛行神社はここしかないのです。市民が誇りを持てる八幡市のシンボルとして十分活用できます。本市の観光面でも大きな魅力になると思います。  
行ってみたくなる八幡市の拠点の一つです。広報活動の中で、しかるべき配慮をお願いしたいと思いますが、現状と課題についてお考えをお聞かせください。

## ③ 八幡浜市訪問の事前教育について

⇒ことは本市の中学生が八幡浜市を訪問する予定でした。残念ながら台風で中止となりましたが訪問されるときに、事前教育はどの程度取り組んで出かけておられますか。

## ④ スポーツ交流の取り組みについて

⇒中学生交流にスポーツ交流もあっていいのではないかと思います。  
八幡浜市でも、スポーツ交流を取り入れていきたいと語っておられました。  
本市としてはどのようにお考えになりますか。

八幡浜市で、二宮忠八翁と市や市民とのかかわりについて考えさせられた翌日の7日は、四国中央市へ参りました。四国中央市は、愛媛県の東の端、お隣は香川県です。徳島県、高知県とも接していて、文字どおり四国の中央に位置しています。議会で、私は毎回観光をメインに取り上げ、質問させていただいております。観光は、八幡市にとって重要な経済問題であり、産業に相当する課題だと思うからです。同時に、これからの八幡市を支える子どものこと、子どもの教育、福祉は何よりも大切にしなければならないと考えています。

今回お伺いした四国中央市は、子どもたちの発達支援に関し、大きな理想を掲げ、明確な目標を設定して事業展開を進めているとお聞きし、それなら直接目で確かめ、日々の活動などを担当者から聞いて、本市の子どもたちのために生かせる場所があればと思い立ったことでした。

四国中央市の話に入ります前に、本市八幡市の子どものための福祉の中で、発達支援活動の現状と、今、決定しているとされている将来展望を確認しておきたいと思います。

---

二宮忠八翁生誕の地

飛行神社

中学生の交流

---

# 八幡浜市との交流 答弁

## ① カラス型飛行機の教材としての活用について

小学四年生の社会副読本の八幡にゆかりのある人々の中に、飛行機の開発に尽くした二宮忠八翁として、カラス型飛行機の写真を掲載し、学習しております。  
また、子ども八幡物知り博士検定で、カラス型飛行機の模型を実際に教室で飛ばし、子どもたちの興味、関心を高めております。

## ② 飛行神社の活用について

昨年度作成いたしました観光パンフレットでは、表紙にカラス型飛行機のイラストを使用し、八幡市と偉人との出会いとして、忠八翁の功績を紹介しています。  
同時に作成いたしましたウェブコンテンツ八幡ストーリーでも、三つの川のストーリーで、忠八翁を詳しく紹介するとともに、飛行神社を含む観光ルートを紹介しております。  
飛行神社は日本のドラマの中で、神社のお守りが取り上げられました。  
台湾で放映されたところ、人気となったことで、市内の観光施設でインバウンド率が高くなっており、忠八翁や飛行神社の情報は海外向けの広報手段としては効果的であると考えております。ウェブコンテンツは、4カ国語に対応しており、これを海外の方にいかにしてごらんいただくかが課題と考えております。

## ③ 八幡浜市訪問の事前教育について

参加する中学生に夏休みに集ってもらい、半日かけてこの事業の目的や、八幡市と八幡浜市のつながり、二宮忠八翁についてなどの説明を行うとともに、交流当日の八幡市の紹介のプレゼンテーションを準備し、充実した交流となるように学習しております。  
また、飛行神社よりご寄贈いただいた二宮忠八翁の冊子などを貸し出し、事前に深めるようにしたこともございます。

## ④ スポーツ交流の取り組みについて

お互いを訪問する中で、合同でスポーツによる交流も望ましいとは考えております。  
ただ、暑い時期での交流事業ですので、内容については検討してまいりたいと考えております。

# 児童発達支援事業所

現在、八幡市には児童発達支援事業所が2カ所あり、市が直営で行っている親と子の育ち合い広場わくわくと、民間が行っているマヌグリオの2カ所。これが、来年2019年4月1日付で民営化され、2020年4月には、児童発達支援センターとして、国庫補助のもとに、新施設が始まると聞いています。ここでは、新たに18歳未満の児童を対象に、相談支援や就学、放課後のデイサービス等の事業の実施や、従来のセラピストによる教育に加え、機能訓練、専門職、医師の配置を予定するなど、地域の中核的な療育支援施設としての機能を担うこと。これらをまとめて民営化でやっていくと理解しています。

お訪ねした愛媛県四国中央市子ども若者発達支援センター、県の皆さんは親しみを込めてパレットと呼んでいます。

まちの真ん中にあり、昨年建ったばかりの建物は、広々として学校のようなものでした。午後1時過ぎにお邪魔して、3時までいろいろ貴重なお話を聞いてまいりました。

設立の経過を簡単に触れておきますと、古くは1976年、旧川之江市に、情緒障害児通園ホームが開設されたときに始まり、障害のある未就学の子どもに、日常生活訓練をするものでした。

翌年には、隣の旧伊予三島市にも親子ホームという同様のホームが開設され、この二つのホームでは、利用者に対し、療育と相談の両方の支援を行っていましたが、次第にホームを利用していない保護者からの相談にも応じるようになっていきました。

2004年の町村合併により四国中央市が誕生し、3年後の2007年、市の子育て担当課の中に、発達支援室が設置されました。ここで、二つのホームで担う療育支援に、発達支援室で担う相談支援が加わったことにより、四国中央市における発達支援の原型ができ上がったと言っておられました。

発達支援室が掲げる目標は、自信たっぷりです。四国中央市の全ての子どもたちが、その子らしく健やかに成長すること、保護者が四国中央市で子育てをしてよかったと思えるまちづくりをすることとして、活動を続けてこられました。2010年に二つのホームと発達支援室を統合する計画が持ち上がり、2017年に子ども若者発達支援センターパレットが開設されました。

このパレットですが、いろいろな色を置き、混ぜ合わせて新しい色をつくり出して、キャンパスに持っていくためのパレットだそうです。パレットには、大きく分けて三つの機能があるそうです。

まずは、日常社会生活を送る上で何らかの困り事のある子どもから若者の相談に答える相談支援、次に、実際に子どもに直接訓練や指導を行う療育支援、3つ目は、子どもや若者がふだん過ごしている保育園や幼稚園、学校で適切な支援が受けられるよう働きかける地域支援の3つです。

相談支援と療育支援が主にパレットの中で支援するのに対して、地域支援では、パレットの職員が出かけていったり、地域で支援に当たっている人にパレットに来てもらったりして、地域全体のスキルアップを図っているとのことでした。

# 児童発達支援事業所 -質問-

発達支援センターの担当者から報告を聞きながら、強く感じたことがありました。

それは、支援センター単独で対応できることとできないことがあったときに、関連の部署との連携が早く適切に行われていることです。そして、1回つながりのできたところは、そのつながりが1回きりにならないように、大切にしていることを感じました。

子どもは、成長過程の中で、発達にかかわり、支援、指導を受けるにしても、さまざまな部署で担当がかわったりすることがあります。

例えば本市では、乳児期の健診は健康部が、幼児期には主に福祉部で、義務教育段階になれば教育委員会で、そしてその後は福祉部でしょうか。

四国中央市は、パレットという一つの部署が、生まれてから成人までの子どもたちの支援を、一環して連携を図りながら取り組んでいることでした。

八幡市のことが頭にあったものですから、つい、パレットは市の直営事業ですが、民営化の話などはなかったのですかと聞いてみました。すると、答えはありません、1970年代から公設で運営してきた歴史があり、また連携が欠かせない市内の保育園、幼稚園のほとんどが、小・中学校の全てが公設であることから考えても、公設以外の道を考えたことはありませんということでした。公設であれ、民営であれ、利用者に真に役立つ施設であればよいのである。

四国中央市の場合は、地域の事情を生かして、掲げた目標に近づく努力を続けていると思いつながりながら、帰ってきたことでした。

四国中央市の例も参考にして、ここで何点かお伺いします。

## ① 児童発達支援センターについて

⇒本市八幡市の児童発達支援センターは、民営化が決定されていますが、指導体制はどのように準備されていますか。

## ② 民営化後の改善について

⇒現在、市が直営で行っているわくわくでは、利用が少なく、送迎がない、年度の途中に入所できないと聞いていますが、民営化されると改善されるのかお伺いします。

## ③ 連携作業について

⇒関連機関、教育機関などとの連携作業をスムーズに進めるための調整は、どの部署で担当されますか、お伺いします。

大切な業務が民営化されるのですから、市民が不安感を持つことのないように進めていかれることを願っています。

以上で1回目の質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

# 児童発達支援事業所 -答弁-

## ① 児童発達支援センターについて

障害者総合支援法に基づき、京都府が実地指導を定期的に行うことになっております。従前から児童発達支援の利用者につきましては、市の健診等により療育の必要性が認められる児童を対象に支援につなげており、ほかの障害福祉サービスよりも行政との連携が必要であると考えております。したがって、本市といたしましては今後も必要に応じて助言や連携を図り、療育支援の充実に努めてまいりたいと考えております。

## ② 民営化後の改善について

児童発達支援の利用につきましては、特定相談支援事業者が、保護者とご家庭の事情や思いなどをお聞きしながら、利用回数を決めておりますが、まだまだ発達支援を利用することに消極的な保護者が多いことから、一律に利用回数がふえるものではないと考えております。

しかしながら、民営化することによって、子どもや保護者に親しみやすい新しい施設の整備、送迎の実施、給食の提供が可能になり、利用回数は増加するものと考えております。なお、年度途中の入所につきましては、児童発達支援センターを運営される特定非営利活動法人ついたちの会において、平成 29 年度から対応していただいております。

## ③ 連携作業について

児童発達支援センターは、本市の障がい福祉課と連携し、地域の療育支援施設として中心的な役割を果たすこととなります。関係機関等の調整につきましては、八幡市障害者地域生活支援協議会等を通じて実施されるものと考えております。

ご丁寧な答弁、ありがとうございました。それでは、2回目の質問をさせていただきます。



# 中学生交流 -質問-

今回、二宮忠八翁を取り上げさせていただいているのは、私がいつもお願いしている観光の面からだけではないんです。八幡市の誇りの創出といいますか、シビックプライドといいますか、市民の皆さんが八幡市を意識するシンボルとしても、十分に活用できると考えているからです。もちろん国宝の石清水八幡宮が八幡市のシンボルとしてありますが、それに次ぐぐらいの価値が、二宮忠八翁や飛行神社にはあると考えています。八幡浜市では、二宮忠八翁の生誕の地として、地域の誇りとして捉えて根づいていつ状況を感じてまいりました。

八幡市でも、飛行機の開発研究の地として、二宮忠八翁や飛行神社を、市民も含めて、もう少しスポットを当てられないのかと考えて、今回、質問をさせていただきました。我が会派の田島議員が、先日的一般質問で、本市と八幡浜市との次世代を担う中学生交流について質問をしたところ、堀口市長から、現在の中学生交流が市民レベル交流まで進展していけばとのご答弁をいただきました。八幡浜市との交流は、単なる地域間交流ではなく、二宮忠八翁のつながりで、市民の誇りをつくる交流であると考えます。さまざまな機会を通して、市としても機運を高めていただきますように、よろしく願いいたします。

そして、中学生交流を足がかりとして、二宮忠八翁が創設した飛行神社やカラス型飛行機を活用して、市民レベルまでの交流に発展させることが、両市のみならず、さらなるつながりへと広まっていくのではないかと考えています。

## 要望

中学生交流を継続していただき、市民レベルの交流へと発展していくよう、お取り組みを進めていただきたいと思っております。また、これからの八幡市を支える子どもたちには、二宮忠八翁の夢の実現に向けて努力したことや、実際に空を飛んだカラス型飛行機に活用によって、子どもたちの生き方や郷土への誇りにつながっていくと考えます。八幡浜市の学校では、それがなされています。さまざまな機会を通して伝えてほしいとお願いしておきます。

八幡浜市との中学生交流ですが、今回、視察に参りまして、先方で聞いたことですが、八幡浜市は坂道が多く、坂のまちだそうです。それを生かして、マウンテンバイクレースも盛んで、オリンピックの日本代表選手選考レースも八幡浜市で開催されています。中学生の交流としても、取り入れていただきたいと希望しておられました。

### ① 中学生交流について

⇒例えば中学生交流で、一緒にマウンテンバイクでまちを散策するなどの交流も考えてみてはどうでしょうか。中学生交流でこちらへ来てもらったときには、マウンテンバイクで八幡市のお勧め旅ルートの中の川辺と空に癒される自然ルートや、門前町の歴史探訪ルートを走るというのはいかがでしょうか。飛行神社もルートに入っていますし、自転車で行けるコースになっています。基本的なお考えをお聞かせください。

### ① 中学生交流について

自転車についてでございますが、自転車は、子どもたちの日常的な乗り物でもあり、八幡市においても石清水八幡宮の参道でマウンテンバイクの大会が開かれたことを知っている子どももいると思われまます。本市において実施する場合、マウンテンバイクの確保などの課題があると思われまます。体を動かすことで交流がより深まることも考えられまます。今後、お互いの交流の中で検討してまいりたいと考えております。

# 今後の展開 -答弁と質問-

次に、広報活動について、今申しました八幡市お勧め旅ルートの載っているパンフレット、八幡市観光のまちが発行されています。八幡市が観光のこうに、幸福のこうを当てています。八幡市観光のまちの中には、飛行神社も紹介されています。表紙には、玉串型飛行機が、桜の花が満開の背割堤の空を飛んでいるイラストも載っています。ウェブサイト八幡ストーリーでも、さまざまな角度から紹介しておられます。八幡ストーリーの三つの川、模型飛行機でいざ探検、三つの川が出会うネイチャースポットの物語の中に、忠八が飛行体験、飛行実験に最適と考えた河川敷は、三つの川が出会い、1本の大河になる三川合流の珍しい地形とあります。三川合流域の景観と忠八の業績がセットでイメージできます。八幡市の魅力がよく伝わってきます。ただ、現状としては、ウェブサイト八幡ストーリーの認知度は低いと感じています。

## ① 今後の広報の展開について

⇒飛行神社の登場するドラマを見て、インバウンドがふえたのを評価するのも結構ですが、観光客がふえたということに留まらずに、広報の展開として課題は何か、課題を克服していくために、今、何が必要なのかをお聞かせください。

## ② 新たな事業の検討について

⇒飛後に、子どもたちの発達を総合的に支援する児童発達支援センターにつきましては、民営化によってよくなったと市民から支持され、信頼されるようになっていただきたいと願っております。発達障害というところで、さまざまな部署がさまざまな事業を展開しておられます。例えば生まれたすぐは、健康推進課で1歳5カ月健診があります。その後、保育園に入れば保育・幼稚園課で、小学校・中学校に入れば教育委員会と、人が成長するにつれて、担当部署が変わっていきます。当然、連携はされていると思いますが、一つの部署で、生まれてから成人までの子どもたちの支援を一貫して取り組んだ方が、より有効であると考えます。私たちが四国中央市まで出かけていきましたように、今度は逆に府下の市町村はもとより、全国から取材に来るようになっていかなければなりません。そのために、新たな事業も考えておられると期待しているところですが、民間だからできることも含めて、現時点で検討されている事業案などありましたら、ご披露していただけますでしょうか。

### ① 今後の広報の展開について

広報活動の課題解決のために、京都府やお茶の京都DMOの海外向け情報発信事業の際には、積極的に広報いただくほか、海外からの観光客がウェブコンテンツを見ただけのよう、新規に設置する観光案内板などを、インバウンド観光のルート上の施設に設置できるよう努めるとともに、今後は訴求力のある媒体の作成についても検討していきたいと考えております。

### ② 新たな事業の検討について

児童発達支援センターを運営予定においては、現在、福祉センターで実施している児童発達支援、相談支援、ソーシャルスキルトレーニング、ペアレントトレーニング等に加え、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、生活介護を実施されると伺っております。さらに、給食設備を活用した子ども食堂、福祉避難所や地域交流に利用できるスペースの確保なども計画されているとお聞きしております。